

数学イノベーション委員会 報告書に盛り込むべき事項について

基本

資料1-1
科学技術・学術審議会
先端研究基盤部会
数学イノベーション委員会
(第14回) H25.12.16

- ・中間報告の理念・方針を踏まえ、今後の取組の具体化
- ・取組の現状を把握・分析の上、重点的な取組・方策を記述（現在の取組の継続・発展など）
- ・具体例など事例・データをベースにできるだけ分かりやすくまとめる

内容

背景・取り巻く状況

- ・数学の活用が進展するがいまだ限定的
- ・一方、研究や産業において数学的アプローチが不可欠との認識が高まっている
（例：ビッグデータ社会の進展、情報セキュリティの強化等の社会的要因、
計算技術の進歩、計算機性能の飛躍的向上等による技術的要因）

取組の現状

- ・個々の取組ごとに現状・進展を定量的な指標を用いて説明（例：研究課題における数学の活用事例）
- ・これまでの成果、今後期待される効果・展開

○数学と諸科学・産業との
協働による研究

○数学と諸科学・産業との
出会いの場(WS、SG)

○人材育成

○情報発信

○必要な体制

今後の取組

1. 現状を発展させる方向性とそのために必要な支援の内容、方法を記述
2. 学会、産業界、国の連携と必要な支援の内容、方法を記述

研究の目標と活動

数学の活用・応用により
発展・進化が見込まれる
研究や産業の具体化
（例：がんの診断、創薬等）
【本日の討議事項】

人材育成

- ・キャリアパスの構築
- ・若手研究者の表彰 など

情報発信

- ・国民・研究者向けの
発信の必要性 など

体制の構築

- ・国内の連携体制
- ・頭脳循環を促すグローバルな研究環境

※中間報告では「将来的にはいわゆる訪問滞在型の研究拠点...を設置することで
具体的課題解決のための研究を促進することが考えられる」と記述